

議会だより

☆ たかもり

令和5年5月8日 No.155

UD
FONT



満開の桜の中 新体制スタート

02 いきいきと魅力あふれる町を目指して

04 質疑から見る令和5年度当初予算

06 団員は町の宝・追跡

08 動き出す新年度へ審議

11 一般質問 議員発町政へ

21 議会のうごき・議員自主研修

22 みんなの声 出 原 木下 英幸さん

下市田 倉沢千穂子さん

5年度予算 ピックアップ

いきいきと

魅力あふれる

町を目指して

3月2日から16日まで定例会が開催され、条例案件16件・契約案件1件・補正予算案件8件・予算案件8件を審議可決しました。町のあらたな取り組みを紹介します。

■主体的な学び、子育てしやすい環境の実現

- ①「自分らしい学び」 応援事業41万円
- ②町立学校運営事業155万円
- ③高森あかり保育園運営事業1億5464万円



牛牧地区フルーツライン沿いに新しく開園した「高森あかり保育園」

③ 3つの柱として

- ・ 支援体制の立て直し
- ・ 居場所づくり
- ・ 学ぶ力の育成

に取り組み、小中学生の楽しい学校生活と学力向上を進めます。

加えて、県の「学びの改革パイオニア校」構築支援事業を活用し、教育支援指導主事の先生を配置、学校をはじめ関係機関・団体と連携を深めます。また、講師を招いて教職員研修や視察などを実施します。

② 中学生の通学用力バンが、タブレット等も収納できるものになり新しくなります。保護者の経済的負担軽減のため、令和6年度に入学される新1年生を対象に、町からカバンがプレゼントされます。

③ 4月より、社会福祉法人菅垣会が運営する新たな認定こども園「高森あかり保育園」が開園し、95名が入園しました。

■魅力発信と地域づくりの実現

- ①地域活性化人材活用事業1184万円
- ②観光協会運営事業1032万円



観光協会が置かれる御大の館

① 地域おこし協力隊員を委嘱して、ふるさと納税返礼品の確保・拡充を進め、地域の魅力を発信します。隊員の定着には地域の皆さんとのつながりが欠かせません。

また、飲食店情報を集めたウェブサイトを運営する「株式会社ぐるなび」と地域活性化起業人の派遣協定を4月10日に締結し「食」を鍵として町の魅力が発信されます。

② 町観光協会に会計年度任用職員2名を配置し、御大の館内で運営を開始します。森の家・湯ヶ洞に限らず上段エリア内の連携と集約、更にはMIZ BEステーションやスポーツ施設など、町内関係施設とも連携が図られます。

■クラブハウス 利活用促進・ 維持管理事業

・クラブハウス供用開始
3577万円

令和6年度サッカー場整備と合わせたクラブハウス利用開始に向けて、令和5年度はサッカー場の工事と調整を行いながら、松本山雅FCによる運動教室や、eスポーツイベントなど、町主催行事が予定されています。

スポーツの多面的な可能性を活かした町民の交流の場として活用されます。

■一人暮らし高齢者 等交流見守り事業

・スマホ教室の開催
0円

民間事業者や社会福祉協議会と連携して初めてスマホを使う方やスキルアップしたい方など、楽しく仲間と学べる高齢者向けスマホ教室が5月・6月・7月・8月に開催されます。

■河川維持管理 支援事業

・河川清掃参加者に
活気アップ商品券
296万円

年1回行っている全町一斉河川清掃の参加者への感謝と各区の負担軽減を図ることを目的に、参加者1人に1千円、各区へ10万円の活気アップ商品券が配布されます。今年度から中学生以上も参加対象になります。

■持続可能な環境の実現

- ①再生可能エネルギー利用推進事業 ……1119万円
- ②省エネルギー推進事業 ……1056万円



町民体育館

①国の交付金を活用し、脱炭素社会実現に向けた取り組みが行われます。

脱炭素移行・再エネ推進交付金を活用し、町民体育館の陸屋根へ太陽光発電設備が設置されます。

また、水力発電の導入加速化補助金を活用し、県企業局と連携して大島川での小水力発電実現の可能性を調査します。

②省エネルギー推進を図るため、公用車1台をEV車にし、役場駐車場に電気自動車の充電設備が設置されます。

■うつくしい地域づくりの実現

・農地維持活動支援事業 ……3421万円



スマート農業導入支援で購入したラジコン草刈り機

・雑草の繁茂を押さえるグラブドカバープランツなどの活用研究が、アグリ交流センターの法面において実施されています。

現状では課題もありますが、その他の実例など、営農支援センターを通じて情報が提供されます。

・雑草や剪定枝の堆肥化について、費用対効果など研究を継続していきます。肥料価格の高騰で、有機肥料の需要増も見込まれることから、農家とも連携していきます。

・農作業の負担軽減のためのスマート農業導入支援について、国・県補助事業や農業資金融資などについて相談ができます。

(産業課35—9405)

チェック 令和5年度当初予算

5年度予算 分科会

各分科会において行われた予算審査の中から、町民の生活に身近な議案の質疑を取り上げました。

※各分科会についての詳しい説明は、議会だより153号に掲載しています。

民生費 障害者福祉費全般

3億3700万円

Q 障がい者福祉に関する事業がいろいろとあるが、対象となる方がそれらを知らず「該当するのに申請をしていない」と言うことがないようにできているか。

A 障害者手帳などの配布の時に、福祉事業のご案内をしている。対象の方が制度を利用できるように情報提供や見える化に取り組んでいきたい。

総務費 職員の研修に関する事務

652万円

Q 具体的にどのような実践型の研修を想定しているのか。

A 主査以下の職員を対象に6月からプログラムをスタートする予定。現時点の計画は地区計画の単位で職員を配置し、各地域の課題の洗い出しや課題の解決方法を実際に地域へ入って地域の方たちと一緒に考え取り組んでいくことを想定している。またこれと並行して講師の下に町の若手職員1名を派遣するほか、町の活性化やPRをするアドバイザー役も委託する予定。特別交付税の措置が受けられる3年を一つの区切りとして取り組んでいきたいと考えている。

総務費 職員の人事及び給与等の管理事務

1812万円

Q 入庁管理システム導入によって業務量などはどのように効率化されるのか。

A デジタル化による業務時間の削減は、総務係で月に16時間・年間191時間の見込み。また、職員全体は1人1日あたり5～10分。月に換算すると184時間・年間2,200時間ほどの削減につながると試算している。

教育費 自分らしい学び応援事業

41万円

Q 自分らしい学び応援事業の中の3本柱である「支援体制の再構築」「居場所づくり」「学ぶ力の育成」とは具体的に何か。また、これは不登校支援のみのことなのか。

A 「支援体制の見直し」は、町内には教室をはじめ、相談室・中間教室・フリースクールなどの各種支援体制が既にあるが、その役割などを明確化し、さらに相互連携を深めていく。

「居場所づくり」は、まずは教室が安心して学べる場所であることを基本とし、中間教室・相談室、家から出られない場合はオンライン学習等で意欲を引き出し、さらに自然体験などなら参加できる子どもたちにはそのような場を作り、関係者とつなぐことなどを実施する。

「学ぶ力の育成」は、すべての子どもに関係する。自己肯定感や、主体的なエネルギーを持てる子を育むため、保小中の連携支援・職員への支援・生活習慣に対する調査や啓発活動などを実施する。これらを県費の専任教員が中心となり行うものとなる。

要望：予算41万円だが今後補正増加してでも予算を付け、力を入れてほしい。

総務費 基幹系システム管理事業

2433万円

Q 「介護・子育てを中心にマイナンバーカードを用いた各種オンライン申請を充実」とは。カードを持っていない人はどうなるのか。

A 子育て関係では、妊娠の届出・児童手当の現況届・保育所入所申請等。介護関係では、介護認定の申請・介護サービス支給申請等でオンライン申請が可能となる。対象となるサービスは26あり対象者は幅広い。マイナンバーカードを所有していない方は役場窓口での手続きとなる。

教育費

山吹ほたるパーク周辺整備事業

5億7240万円



整備されるほたるパーク周辺

Q

山吹ほたるパーク周辺整備事業の工事請負費5億3千万の具体的な内容は。

A

サッカー場整備の内容としては、人工芝のサッカーコート・観客席・防球ネット・夜間照明設備・調整池機能を備えたアップスペース・舗装工（駐車場・アクセス道路）となる。製品の種別・工法等については詳細設計を進める上で、予算の範囲内で決めていく。

議会が厳しく 質疑から見る

衛生費

再生可能エネルギー利用推進事業

1119万円

Q

町民体育館の陸屋根へ45kwの^{ピーピーエー}太陽光発電設備の設置を※PPA事業により計画しているが、事業者はどのように決定するのか。

A

電力買い取り価格や維持管理体制等を総合的に判断するため、※プロポーザル方式により業者選定したいと考えている。

※PPA事業とは

施設所有者が提供する敷地や屋根などに、太陽光発電設備の管理を行う会社が、設置した太陽光発電システムで発電された電力を、その施設の電力使用者に有償で提供する仕組み。

※プロポーザル方式とは

主に業務の委託先を選定する際に、目的に対する企画を提案してもらい、その中で優れた提案者を選定すること。

私はこう主張する

予算審査特別委員会全体会 討論

反対

▷山吹ほたるパーク周辺開発事業に加え、今後5年で福祉センターなど35億円の概算事業費が明らかになったが、財政見通しは示されていない。撤回を求める。

熱中小学校運営支援事業について、運営方法が所期の目的からかけ離れており、商工会の行うべき事業である。この事業は削除し再提出を求める。

賛成

▷山吹下河原はこれから竜神大橋ができ、かわまちづくりの計画も進んでいる。ますます活性化していくところである。クラブハウスも完成し、本体となるサッカー場も活性化のためには必要である。

観光事業の充実を図る中、熱中小学校も地域商社として自立するための第一歩であり賛成する。

▷先の意見に説明がされていないとあった。町議会は説明を受け話し合ってきた。

町の説明に納得できないのは議会としてなのか個人としてなのかはっきりしてほしい。

土木費

町道Iー1～230号線拡幅改良事業

8802万円



改良が行われる城岸橋周辺

Q

改良区間とはどこからどこまでか。

A

(有)小池興業から大丸山公園東信号機までのセンターラインと歩道がない区間のうち、令和5年度は(有)小池興業から城岸橋までの整備を行う。

農林水産業費

有害鳥獣駆除等事業

1880万円

Q

緩衝帯整備を行うとのことだがどこで行うのか。

A

特にサルの被害の多い山吹追分、本学神社周辺を予定している。

5年度予算 消防費

人命・財産を
災害から
守る

団員は 町の宝!

3月議会において
機能別消防団員制度
の導入が取り上げら
れました。
議会では過去にも
団員の減少を一般質
問しており、その後
を追跡しました。
現役団員の声と共
にお届けします。

【令和5年3月議会全員協議会】

Q

機能別消防団員は訓練も受け
るのか。

現場での指揮系統、コミュニ
ケーションなどの課題は。

A

訓練や指揮系統も通常の団員
と同じ。連携やコミュニケー
ションに加え、技術の継承も
協力をいただきたい。



技術を伝える 中継訓練

追跡!! 消防団運営は今 どうなってるの?

質問

消防団員が減少している。今後の消防団運
営は。
【令和4年3月議会定例会】

答弁

年々深刻さを増している。令和4年度から
第一分団（下市田・牛牧・上市田）を5班編
成から3班編成に改編。今後の消防団運営に
ついては、担い手の確保・機能と仕組みの改
革が必要と考えている。
【総務課長】

その後

産業構造や就業構造の変化・
若年層の人口減少・個人の価値
観の多様化・地域コミュニティ
機能の低下などにより団員数は
年々減少している。新規入団者
の確保は難しく消防力を維持す
ることが大きな課題となってい
る。現状ではOB団員の協力（消
防協力団員）により消防力を維
持しているが、令和5年度から
機能別消防団員を導入すること
により、更に安定的に消防力を
維持することに繋げていきた
い。

団員数の推移

分団名	定員	R4		R3		R2	
		団員数	前年比	団員数	前年比	団員数	前年比
全 体	200	114	▲29	143	▲20	163	▲16
第1分団	75	31	▲12	43	▲8	51	▲9
第2分団	47	36	▲10	46	0	46	▲3
第3分団	47	23	▲6	29	▲3	32	▲6
本 部	31	24	▲1	25	▲9	34	2

機能別消防団員とは

身分	消防団員に準ずる
階級	団員
任命要件	分団長が推薦し、町長の承認を得て、団長が任命
任務	火災時における消火活動及び支援活動
活動範囲	町内全域
報酬等	年額報酬：36500円、出勤報酬：半日4000円 1日8000円 退職報奨金：3年以上在籍で支給

消防団員の声



女性消防

こんにちは。高森町女性消防団に所属しています。活動内容は、女性ならではの、非常食作りなどがあります。興味のある方は、入団お待ちしております！



副団長

現在、消防団員の人数確保が大変困難な時代になっております。その中で、消防団員として時間をさいて活動してくれている現団員は高森町の宝だと私は思っております。これから先も、町の宝となる若者を育てるために是非地域の皆様にも団員確保にご協力して頂き、高森町全体で消防団はじめ地域を盛り上げて行きましょう！



第1分団

消防団では歳の近い人達と共に、町を守る活動であつたり楽しい交流などできドキドキワクワクする体験ができます！



第1分団

地域の方や、普段あまり関わらない年代の方々の会話やふれあいが楽しく、一緒に協力して活動することによりがいを感しました。



第2分団

消防を通じて、地元の同級生や先輩、後輩と仲間の輪が広がったことや、消防の道具の使い方や救護の知識が少しでも身に付いた事はやってよかったと思う。



第2分団

私は高森町消防団へ入団して4年目になります。最初はわからないことだらけで不安でいっぱいでした。しかし、分団長や班長、入団歴の長い班員の方々が丁寧に指導等してくださったこともあって不安も無くなり、今では楽しく活動できています。



第3分団

災害時には町民の皆さんを守るよう日々訓練に励んでいます。もしもの時は素早く・的確に消防団としての職務を全うします。



第3分団

年々消防団員は減る一方で、分団存続の為に自分には何ができるのかを考え精一杯活動しています。

動き出す新年度へ審議

3月定例会議決結果は町民生活に直結したものを掲載しています。
議決結果などの詳しい内容は右のQRコードからご覧ください。



○条例

議案名	結果	内容
高森町個人情報の保護に関する法律施行条例の制定について	可決	個人情報の保護に関する規律の施行に関し必要な事項を定める
高森町情報公開・個人情報保護審査会条例の制定について	可決	個人情報の保護に関する審査を行うための機関を設置するため
高森町水道条例の全部を改正する条例について	可決	「高森町上水道」「山吹簡易水道」「千早原簡易給水施設」の3事業を統合し、1事業とするため
高森町国民健康保険条例の一部を改正する条例について	可決	出産育児一時金の額を改正するため

議案名	結果	内容
議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について	可決	高森町特別報酬等審議会の答申を踏まえ議会議員の報酬月額を改定するため

討論

反対

- 保育園の改修、さらには福祉センターの改築と大きな建設を控えており、今後の財政状況をもう少し見てから昇給アップでも良い。今回の議員報酬引き上げは見送ることが望ましい。
- 今回の改定で必要となる予算は期末手当も含めると総額350万円程度「町民の税金」からである。納税者に理解されていない。「議員のなり手不足」を考えた場合、定数減などほかにも解決方法はある。

賛成

- 町の代表である報酬審議会の決定は受けるべき。当町の議員報酬を上げることは他町村の報酬アップにもつながる。今後、町を良くしようと考えて立候補するサラリーマンのためにも必要である。

賛否

本島	齋藤	小沢	河合	小川	佐々木	三浦	木下	原	北沢	市川	大島	岩口	小平
○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	—

・議長は賛否同数の場合のみ議長採決となり、賛否を表明します。

○請負契約

議案名	結果	内容
令和4年度町単道路整備事業道路改良工事変更請負契約の締結について	可決	町道2011号線他 牛牧宮沢1工区について新たな残土処理が生じたため

○請願

件名	結果	内容
「最低賃金法の改正と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める請願書	不採択	1. 政府は最低賃金法を全国一律制度に改正すること 2. 政府は最低賃金の引き上げができ、経営が継続できるように、中小企業・農林水産業への支援策を抜本的に拡充・強化し国民の生命とくらしを守ること

討論

反対

- 経済構造は様々な側面から成り立っており、最低賃金だけを取り上げて他国と比較することは意味のあることか。日本経済が賃金のことで良い方向に向いているのを壊さないためにも、委員長報告の通り請願に反対する。

賛成

- 急激な物価上昇などにより労働者の生活は圧迫され、購買力も落ち込んでいる。政府として全国一律最低賃金制に是正し同時に中小・零細企業・農林水産業への抜本的な支援融資が必要である。
- 高森町でもほとんどが中小企業でコストを価格転嫁し大企業と取引をし収益を上げることができない状況である。購買力・農産物の価格向上、また若者が田舎に帰り、後をつげるためにも請願に賛成する。

賛否

本島	齋藤	小沢	河合	小川	佐々木	三浦	木下	原	北沢	市川	大島	岩口	小平
○	×	×	×	×	○	×	×	○	○	×	×	×	—

件名	結果	内容
再審制度の速やかな改正を求める請願書	不採択	1. 再審請求手続きにおける全面的な証拠開示を制度化すること 2. 再審開始決定に対する検察官の不服申し立てができない制度に改正すること

討論

反対

- 議員必携に「請願の採択には願意の妥当性、実現性、町村の権限、議会の権限事項に属する事項であるかを判断の基準とする」とある。再審の関係は高森町議会として、権限外事項と判断し請願書に反対せざるを得ない。

賛成

- 再審請求は有罪の判定をされたことに対し、事実認定をただすための救済手段である。証拠品の隠匿が高いとされる袴田事件は57年がたった。こうした冤罪の疑われる事件を速やかに解決するため請願に賛成する。

賛否

本島	齋藤	小沢	河合	小川	佐々木	三浦	木下	原	北沢	市川	大島	岩口	小平
×	×	×	×	×	○	×	×	○	○	×	×	×	—

○令和5年度一般会計・特別会計・企業会計予算

会計名		令和5年度	令和4年度	前年比
一般会計		76億4000万円	71億4000万円	7.0%
特別会計	国民健康保険事業	13億0917万円	13億1092万円	▲0.1%
	後期高齢者医療	1億8374万円	1億7870万円	2.8%
	介護保険	14億6566万円	14億5982万円	0.4%
	地域開発事業	2億2188万円	2億5334万円	▲12.4%
	農業集落排水事業	3億1390万円	3億1798万円	▲1.3%

議員3名により、一般会計予算案に対する組み替え動議が提出されました。

●動議の理由

- ①山吹ほたるパーク周辺開発事業の削除。
なぜフットボールセンターにするのか、フットボールセンターのメリットとデメリット・出来上がった後の維持費・今後の財政見通しなど町民に説明がされていない。
- ②熱中小学校運営支援事業費の削除。
令和5年度は一般の学生募集は行わず、企業や事業所の若手職員対象のプログラムへと変わり、所期の目標からかけ離れ、商工会が行う事業へと変質したため。

討論

反対

- 地区懇談会にどれだけ参加され、町民の声を聞こうとされたのか。私たち議員は、幅広い町民の声を聞いて、調整の方向を定めるのが仕事。その幅広い意見を聞くためにどれだけ努力をするか。肌で感じながら、予算について討論すべきである。
- 町は説明会を行ってきた。議会も定例会・全員協議会・常任委員会で、その都度説明を受けている。今回のサッカー場の整備は必要な整備であり、熱中小学校運営事業についても必要な予算である。
- 松本市民に「私たちには山雅がある!」といった気概を感じた。東日本大震災の際に、楽天イーグルスに勇気づけられた。高森町民にとってそういった存在になってほしい。町予算がこの地域の活性化になる。

賛成

- サッカー場は町民の側からの盛り上がりはいまだになく、広く町民の恩恵につながる事業を優先すべきだ。また国からの助成が終わった熱中小学校事業への支援の母体を商工会などへ移行すべきである。

●動議に対する議員の賛否

結 果	本島	齋藤	小沢	河合	小川	佐々木	三浦	木下	原	北沢	市川	大島	岩口	小平
否決	×	×	×	×	×	○	×	×	○	○	×	×	×	—

●審議結果と議員の賛否

議案名	結 果	本島	齋藤	小沢	河合	小川	佐々木	三浦	木下	原	北沢	市川	大島	岩口	小平
令和5年度高森町一般会計予算について	可決	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	—

会計名		令和5年度		令和4年度		前年比	
		収入	支出	収入	支出	収入	支出
公共下水道事業	収益的収支	4億3716万円	4億2669万円	4億6593万円	4億3128万円	▲6.2%	▲1.1%
	資本的収支	2億0703万円	4億2103万円	4億0231万円	5億5531万円	▲48.5%	▲24.2%
水道事業	収益的収支	2億9400万円	2億2686万円	2億9692万円	2億3576万円	▲1.0%	▲3.8%
	資本的収支	2087万円	2億2564万円	1109万円	1億2510万円	88.2%	80.4%

*収益的収支とは主に維持管理、資本的支出とは主に建設改良の収支です

2月臨時会 議決結果

開会日 2月20日

議案名	結果	内容
令和4年度 地方創生拠点整備交付金事業 高森町スポーツ拠点施設 クラブハウス改修工事 変更請負契約の締結について	可決	工事費992万円を増額 消火設備・誘導灯の増設・床面の地下処理 ギャラリーアクリル板・手摺取付工事 等
令和4年度 地方創生拠点整備交付金事業 高森町スポーツ拠点施設 多目的広場等整備工事 変更請負契約の締結について	可決	工事費240万円を減額 既存水路擁壁全撤去を一部撤去へ 外灯4基を3基へ・ステージ壁面の変更 等
令和4年度 高森町一般会計補正予算(第6号)について	可決	歳入歳出それぞれ251万円増額し 総額77億7090万円とする ▶森の家 個別ユニットバスの設置 (小規模でご利用されるお客様の個別入浴に対応) ▶県議選 入場券発送・ポスター看板設置等

一般質問

議員発 町政へ

一般質問は年4回開かれる「定例会」において、議員が執行機関（町長・教育長等）に町政運営全般にわたり、事務の状況や今後の方向性に対する疑問点を質問し説明を求めることで、町政の姿勢を明確にする等の目的があります。

質問権は全議員に認められています。

3月定例会では9名の議員が行いました。



定例会はケーブルテレビにて生放送しています

12

木下 啓 爾

町民への情報提供の考え方は

13

大島 正 光

町への移住・定住政策の促進を

14

佐々木 昌

サッカー場等の対応条例を問う

15

本島 未 来

今後のマスク着用の考え方は

16

原 敏 明

町道除雪を全路線業者委託で

17

北 沢 幸 保

事業を見直し給食費無償化を

18

齋 藤 天

不登校への具体策は

19

三 浦 喜 久 夫

特定外来植物駆除・竹林整備
どう対処する

20

河 合 隆 俊

社会に合わせた子育て環境に
奨学金の代理返還への支援

町民への情報提供の考え方は



木下 啓 爾

総務課長

「メディアミックス」が効果的

よりよい町政には、町と町民を結びつける情報が重要な役割を果たします。「時代に合ったツール」で「ニーズに合わせた町からの情報発信」をテーマとしました。

▽質問

情報は「知らせる努力」と「知る努力」があって相乗効果が期待できる。町側の「町民に情報を得て頂く努力」が必要になるが、町の考え方は。

総務課長

情報を届けたい年代とか情報の内容に応じて、「分かりやすさや魅力」の向上に努めている。町からの情報プラットフォームであるホーム

ページの充実を最優先にしつつ、町民の利用度の高い広報誌やお知らせ版をホームページと組み合わせる「メディアミックス」が効果的と考える。

それら情報周知において最も大切なことは、町政や地域づくりに町民が「自分ごと」としての関心や参画意欲を持っていたり、町が取り組んでいる地域人材教育は、その力ギともなる取り組みであると考えている。

▽質問

町からの情報提供に関する「基準」はあるか。

総務課長

具体的な基準はない。しかし、昨年総務課で「情報発信方針」を策定し、当町の現状と課題、改善の方針を整理して職員への周知を図っている。

▽質問

情報は、町政と町民をつなぐ大切なもの。その

ための基準を定め、各課への広報担当者の配置や担当者間で打ち合わせが必要ではないか。

総務課長

現状ではそのような横断的組織や機能はない。しかし、広報や情報発信伝達のスキルアップ研修や職員間の情報共有を進めていきたい。さらに、広報担当職員の打ち合わせ会議を設けて、何らかの基準を協議する。

▽質問

保育園建設やクラブハウス・サッカー場建設など、高森町に大きな影響をもたらす事業について、町民の「知らなかった」「聞いてない」という声が聞かれた。町からの情報提供に問題があったのか。

町長

それらの事業については、いずれも地元・各地区での説明会をおこな



【町からの情報提供ツール】

た。議会の全員協議会を通して説明した。また、新聞等での報道、広報たかもりやホームページ等で随時周知を図ってきた。

町の情報提供の仕方、それ自体に問題があるとの認識は持っていない。

町民の皆様は、決して容易に実現できない。一方で、町として町民の皆さんに自分ごととして町政に関心を寄せていただくということが、まだまだできていないのも確かです。

町への移住・定住政策の促進を

町長

環境整備に積極的に取り組んでいきたい

▽質問

新型コロナウイルス禍でテレワークが普及、若者を中心に自然豊かな環境で子育てをしたい若い世代が増えている。

当地域もリニアが開通すれば、東京や名古屋まで20〜40分で繋がる。

今から移住・定住できる環境を備えることが大切である。

そのためには、自然環境に加え、居住・就労・支援体制が重要と言われ

ている。

最初に居住について、町営の山吹団地は40年以上経過している。

また、吉田河原にある県営吉田団地も老朽化している。

いずれも鉄筋コンクリート（RC）4階建てに改修し、子育て世帯や移住者等も入居できるよう提案、また県にも改修要望したらいかがか。

建設課長

当該町営住宅について

は、現在入浴設備がなく老朽化が進んでいる。

県営吉田団地も老朽化が進み入居希望者が減少、現在募集停止となっている。

町営山吹団地と同じ居住環境の改善が共通の課題となっている。

今後、県営吉田団地と町営住宅の山吹団地を一つに集約し、県が公営住宅として建て替えを行い、25年後に町が無償で譲渡を受ける県営住宅建替事業を前提として、高森町内の公営住宅の効率的な再編について、県と協議を始めたいと考えている。

▽質問

次に就労について、三

遠南信自動車道やリニア開通を見据えた企業誘致の考えは。

産業課長

企業の受皿として下市田産業用地約15haを整備、うち4haについて2企業が立地していただいた。

そのほかの場所は当面JR東海によるリニアガイドウェイヤード等で利用されるが、ヤード工事完了を迎えるまで待つことなく、企業の情報把握などに努め、誘致につなげていきたい。

▽質問

町内で生まれ育った若者が、進学等で地元を離れたが、定住のため帰ってきてやすい環境づくりが一番大切と考えるが、町長の考えは。

町長

おっしゃっていたいたとおりと思う。

地域に帰って定住を考

える条件として、安全・安心や経済的安定、子ども教育環境、そして暮らしを豊かにする楽しみが必要と言われている。

業立地など通じた働き場の確保、企業支援、保育園の整備など子育て、教育環境の充実、新たなスポーツ施設の整備など積極的に取り組んでいきたい。



おおしままさてる
大島正光



RC 4階建てに改修提案した現在の町営山吹団地

サッカー場等の対応条例を問う

教育委員会事務局長

スポーツ全般推進体制で検討



さき あきら
佐々木 昌

▽質問

高森町サッカー場及びクラブハウス（仮称）は高森町社会体育設置条例第4条に、加わるのか。

教育委員会事務局長

高森町サッカー場及びクラブハウスは、町の社会体育施設となり、高森町社会体育施設条例に追加する。

クラブハウスは、令和4年度末までに完成となる。6月のほたる祭りなど多くの皆さんが集う際に、町民の皆様にご覧いただく機会を設けたい。

6月を目途に条例改正などを行う予定。当面は安全に配慮し、一般への開放はせずイベントを中

心に利用していく。ただし、イベントの中の参加費などが必要になる場合もある。

▽質問

この条例に基づき、使用にあたっては、高森町体育施設運営委員会が、社会体育施設貸出し基準についての申し合わせにより、調整を行ってきた。サッカー場及びクラブハウスの管理者はこの委員会に参加するのか。

教育委員会事務局長

施設予約のオンライン化に伴って、平成29年4月から運用が変更となった。2月にまず年間調整会議を行い、全体の施設利用を確定した上で公共施設使用登録団体が1カ月前から予約が可能となる。

クラブハウス・サッカー場についても、同様の取り扱いになる予定。

▽質問

山吹区からの要望に対する町長の回答は「サッカー場は、地域のスポーツ大会、レクリエーション、またコミュニティ行事等にご利用いただけます」と回答している。ランクはどのように変わるのか。

教育委員会事務局長

現在、平成29年4月から運用が変更により社会体育施設の貸し出しについてのランクはない。

▽質問

サッカー場についていえば、示されたフットボールセンターとしてのデメリットの中に、県サッカー協会がサッカー場を時間的にも5分の4使用するという条件がある。町民の予約幅が大きく制限されるのではないか。

教育委員会事務局長

長野県サッカー協会から現在お聞きしている中では、県協会主催の中小高生の下伊那リーグの大会、南信大会などの実施が、主に休日に予定されている。

年度当初には調整により日程が決まっており、予約システムから町民の皆様も通常どおり予約できる予定。

▽質問

高森ドームのように、



建設中の屋内運動場を視察

65歳以上の当町民は無料にする、などの優遇措置は予定しているか。

教育委員会事務局長

現在、公共施設利用登録団体として登録されている団体の施設利用についても無料となっている。

令和5年度に体育施設利用団体の方々を中心に、町のスポーツ推進全般の体制について考えていただく会を立ち上げていく予定である。

今後のマスク着用の考え方は

教育長

個人の主体的な選択を尊重する

教育長

2月10日に開催された新型コロナウイルス感染症対策本部にて、「マスク着用の考え方を見直し等について」が決定され、4月1日以降の新学期におけるマスクの着用の考え方、学校生活、学校活動の実施にあたって、着用を求めないことを基本とする」とされている。

▽質問

マスク着用の考え方見直しに伴う教育現場の今後の対応は。



もと じま み らい
本島 未来

▽質問
留意事項の中に、行政また教育現場が一律にルールとして求めるのではなく、着用するかどうかは、個人の判断に委ねることを基本とし、本人

▽質問
新学期におけるマスクの考え方については、現在確認をしている。県からの通知を確認の上で、一定の考え方をお示しするが、個人の主体的な選択を尊重させていただく。

の意思に反して着脱を強いることがないよう、個人の主体的な判断が尊重されるなどとしている。
マスクをしたくない子・したい子・したくてもできない子など、それぞれの考え方や権利を理解し、尊重し合うことは、昨年12月の一般質問でも取り上げた、改正版生徒指導提要・新学習指導要領に基づいた「対話型の学び」「多様性とは何か」を、深く理解するための良い機会となると思う。
子どもたちが学校において、今後のマスクに対する他者への考えを理解する機会、この議題に対し、あるべき指導についても併せて見解を伺う。

教育委員会事務局長

互いが安心して各種行事や学校生活に臨めるよう、各学級等で指導また話し合いを行う。一方で、学活や道徳、保健室による指導の機会も設けていきたい。

▽質問

4月1日からの学校生活におけるマスクの着用に関する対応の準備にこ

ういった準備が必要になるだろうというところを踏まえ伺う。

教育委員会事務局長

もう少し踏み込んだマスク着用の議論は、必要。人権的な感覚も踏まえマスクの着用の考え方を学校と共有していく。

▽質問

好奇心や不安感・違いなど、周りの多様な判断

が出てくる中で、子どもの心の変化を受け止め、対応する体制は。

教育委員会事務局長

相談窓口をきちんと周知し、気になる生徒の様子を、学年や職員会等ですぐ共有をし合って、学校・関係機関等と連携して進めていく。

新型コロナウイルス感染症対策

これまで屋外では原則不要、屋内では原則着用としていましたが
令和5年3月13日から
マスク着用は個人の判断が基本となります

ただし、以下のような場合には注意しましょう

周囲の方に、感染を広げないために
マスクを着用しましょう

受診時や医療機関・高齢者施設などを訪問する時
通勤ラッシュ時など混雑した電車・バスに乗車する時

ご自身を感染から守るために
マスク着用が効果的です

高齢者
基礎疾患を有する方
妊婦

重症化リスクの高い方が感染拡大時に混雑した場所に行く時

本人の意思に反してマスクの着脱を強いることがないよう、個人の主体的な判断が尊重されるよう、ご配慮をお願いします

※事業者の判断でマスク着用を求められる場合や従業員がマスクを着用している場合があります

厚生労働省
厚労省HPより

新型コロナウイルス
マスクの着用について
(厚生労働省HP)

作成：令和5年2月10日

厚生労働省HPより

町道除雪を全路線業者委託で



あき とし 原 敏

建設課長

地域の声を聞きながら検討したい

▽質問

除雪会議では、除雪優先路線とそれ以外の除雪路線と担当業者が示されたが優先路線及び除雪路線に選定される基準は。

建設課長

大規模な降雪に対しては、すべての路線を一律に除雪することは不可能であり、集中的に除雪する路線とそうでない路線を事前に区別していく必要がある。

そこで、それぞれの路線の特性である、バス路線、沿線に立地する施設、物流、迂回ルートの有無など、重要度に応じて、町道の除雪優先順位を設定している。

優先順位は、まず1番

は国道・県道、2番目は1級町道など主要幹線道路、3番目は、病院、スーパー、学校、保育園、火葬場へアクセスする道路ということ、この1から3までを優先路線として指定している。

その他の除雪路線については、地区と協議の中で、勾配が急で降雪により生活に影響が出やすい路線を選定している。

▽質問

水道施設、貯水池等については、どうか。

建設課長

堂所の貯水池は、除雪路線として設定されている。

▽質問

この除雪会議で示された緊急時除雪路線では、雪害対策本部が設置されたようなときに除雪が行われるのか。

建設課長

国道・県道については県が、町道については町が除雪をしているが、大規模な降雪に対しては、お互いの管理区域を越えて対応するよう、県と協定を結んでいる。

この対応を行う場合については、県、町どちらかが協議を行い、協議をし、合意に達した時点で、逐次雪害対策本部の設置をすることは必要ない。

▽質問

地域防災計画の雪害対策の中に、降雪による農業被害の予防とともに、除雪の優先路線もきちんと位置づけるのか。

総務課長

高森町地域防災計画の除雪に関して、実際にできるところと現実的なところを、建設課とも協議をして、地域防災計画は見直を検討したい。

▽質問

除雪路線以外の町道については、以前は、ガードレールの除雪道具を軽トラック等で除雪してきしたが、それができないのであれば、全路線を業者委託にするのか、除雪機を買って有償ボランティアにお願いするかを考えたらいかがか。

建設課長

事業者の除雪作業量も

目いっぱい、これ以上負担はなかなか難しい。事業者のご協力をいただきたが、それぞれの地域で現状に合った対応をお願いし、除雪できない箇所が減るように、各區でのご協力をお願いし、今回の提案については、地域の声を聞きながら、検討したいと考えている。



会所前に置かれたガードレールの除雪道具

事業を見直し給食費無償化を

町長

様々な方法で保護者負担を軽減

サッカー場

▽質問

5年程の内に、福祉センター10億円・下市田保育園4億円・山吹保育園

4億円・かわまちづくり7億円、これにサッカー場を加えると35億円程の事業を進めなければなら

ない。一般財源はどのくらい必要か。

総務課長

5つの事業に加え、中央公民館の改修も必要となり、起債対象経費、補

社会体育施設として利

町長

か。

むことは無謀ではない

▽質問

サッカー場は造ることが目的ではなく、造った後の維持費やランニングコストなどを町民に周知

していない現在、来年度の予算に建設費を盛り込むことは無謀ではない

熱中小学校

開校からこれまでに8280万円支援。このうち一般財源から4020万円支出している。

▽質問

町民には成果が十分伝わっていない。今後、サッカー場を含めて35億円程の大型事業を考えた場合、閉校を検討するべきではないか。

町長

授業の多くが実践事例の紹介で、この地域や自分ごととして感じづらい

町長

こと。活動している生徒が固定化していること。活動を学校の事務局に依存していることなどの課題が見えてきた。

運営元には、課題の整理と今後の運営の見直しを依頼した。

研修センター森の家

▽質問

令和4年度の管理費は1144万円となっている。町長は費用対効果をどのように評価しているか。

町長

現在の利用者が求める機能とは差が生じてきている。建築から相当の年月が経過し、老朽化も進んできているので、このままの状況で経営を継続していくこ

町長

とは難しい。

給食費の無償化

年間の給食費は、小学生53000円、中学生64000円程となる。

▽質問

給食費無償化は、教育負担の軽減・子育て支援・少子化対策・消費喚起など町民福祉の増進においてサッカー場より恩恵が大きく、町の活性化につながる。サッカー場・熱中小学校・森の家などの

当町の給食費の実態と 県内自治体の動向

- (1) 令和5年度、当町の1食当たりの食材費
小学生：285円、中学生：340円
(この内20円を町で補助)
- (2) 保護者の1食当たりの給食費負担額
小学生：265円、中学生：320円
- (3) 義務教育期間中の保護者負担額
小学校：318,000円、中学校：192,000円
(令和5年度の食材費で試算)
- (4) 令和5年度、当町の学校給食費負担金
保護者負担金：6,409万円
- (5) 令和5年度、県内で学校給食費無償の自治体数
軽井沢町・大鹿村など17自治体
(日本共産党長野県委員会の資料より)

費用対効果の低い事業の見直しを行ない、給食費の無償化を進めるべきではないか。

町長

様々な方法で保護者負担を軽減している。特に経済的に厳しい家庭には要保護・準要保護制度により教育格差につながらないように努めている。

どうして給食費なのかというところが、私には理解できない。

町長

町長

町長

町長

町長

町長

町長

町長

町長

不登校への具体策は

教育長

児童生徒の自己の確立を目指す



さいとう ひろし
齋藤 天

▽質問

当町の不登校の現状は。

教育長

令和3年度の不登校（年30日以上欠席）は、小学校11名、中学校34名で年々増加している。

▽質問

不登校傾向の生徒は。

教育長

不登校傾向（欠席日数が30日未満で、学校を休みがち、遅刻・早退が多い）の生徒の状況も、ほぼ同数と思われる。

校内の中間教室や相談室で学習・朝に腹痛を訴え保健室・図書館で過ごす・放課後登校の生徒も。

高森中学校で行われたアンケートでは約1割

が、授業に興味を持てない・心の中では学校に通いたくない・学校が嫌い・嫌だと感じている子どもたちと考えることができる。

▽質問

心身症で体に不調をきたす子たちに、とても心が痛い。不登校にいたる原因や、生徒たちの声は。

教育長

町内の最も多い理由は、無気力・不安。全国と一致している。

他の理由は、学業不振・友人関係・生活リズムの乱れ・親子の関わり方や家庭内の不和など。

生徒自身が、「なぜ学校に行けないのか、自分でもよくわからない」ということや発達障がいなどのケースなども。

▽質問

今後の不登校への具体策は。

教育長

令和5年度より「自分らしい学び」応援事業を立ち上げる。町内小中学校に通うすべての児童生徒の自己の確立に向けて、自分らしい学びを保



みらいに希望ある教育がのぞまれる

障し、伸びる力を一層伸ばすためのもの。

不登校対策について

は、①支援体制の見直し、

②居場所づくり、③学び

力の育成を考えている。

▽質問

お祭りで元気な子どもたちをみるが、地域とながら取り組みは。

教育長

お祭りの練習などへの参加を大いに声かけをしている。

○要望

本件は、私たちに与えられた大任である。決して平坦で楽な道ではないが、一丸となり取り組み、必ず道は見える。相補い合いながら進んでいくことを切望する。

特定外来植物駆除 竹林整備

どう対処する

産業課長

竹林は地域の皆様と協働で維持管理

春になると、竹林にタケノコ、野山や土手には、特定外来植物のアレチウリ・オオキンケイギクが勢いを増し、厄介者と言われる植物の被害が気になる季節になりました。

環境水道課長

GAIRAバスターズ駆除作業の実施場所など1万分の1の町図に生息箇所をおとした簡易なものを作成し把握している。

▽質問

GAIRAバスターズやビリンジャーの活動だけでは、限界も感じています。

特定外来植物駆除

▽質問

特定外来植物の生息域分布図は作成している

環境水道課長

特定外来植物を町民の



お くら き く み
三 浦 喜久夫

皆様にもっと知っていただき、気づいた方が抜き取りをしていただけるよう広報等に努め、環境整備作業の際に抜き取りを依頼したいと考えている。

▽質問

誰かが取り組むではなく、誰もが取り組む課題として、アレチウリ・オオキンケイギクの生息、駆除の方法、「土壌シールドバンク」をつくらないなどの学習機会を増やし、やらされ感でなく自分事として危機感を感じよう仕掛けが必要ではないか。

環境水道課長

広報のやり方など、効果的な方法について継続

的に研究しながら、特定外来生物への意識高揚が図れるよう努めていく。

竹林整備

▽質問

竹林を今後どんな状態にして維持していくのか。竹林整備後の姿を明確にして取り組む必要がある。

産業課長

まずは皆伐などの整備を行い、その後の維持管理を、地権者あるいは地域の皆様協働で取り組んでいくことを目指し、城坂をモデルとしている。

▽質問

竹の特性から、再生竹が発生し、広葉樹を植えても成長を妨げる。城坂などの竹の発生を抑える管理はどう行っているか。

産業課長

作業の時期、方法、薬剤の導入などを試行し適切な方法を計らう。

▽質問

竹の繁殖特性を生かし、竹を資材や資源として利用し、脱プラの波に乗って、竹製品を見直し、活用する仕組みを考えてみてはどうか。

産業課長

竹の成長に対して、加工までの時間とコストが大きいことが課題。農業

資材としての可能性については皆様と考えたい。

▽質問

竹林整備のための林道や作業道の整備をすることを提案したい。

産業課長

維持管理を地区の皆様にお願ひし、作業道整備などの個別の課題は協議をする。



湯が洞線でオオキンケイギクの抜き取り作業をするGAIRAバスターズ(2022.7)

社会に合わせた子育て環境に

町長

切れ目ない包括的支援に取り組む



かわい たかし
河合 隆俊

▽質問

政府は、誰もが子どもを安心して産み育てられ、十分な教育が受けられる社会づくりを国家戦略とし、この4月から「子ども家庭庁」が設置される。国の施策の展開をどのように捉えていくのか。

町長

国全体として子どもを真ん中に置き、子どもの最善の利益を第一に支援を行っていくための中心的組織とお聞きしている。

当町は、これまでも関係各課の連携を密にして、全庁を挙げて子育て支援を行っている。こと

も家庭庁の創設により、町の組織を見直しすることなく切れ目ない包括的支援に取り組んでいく。

▽質問

各家庭の事情や親の健康状態などから、孤独の中で育児に向き合わないといけない母親もいる。そこで、家事支援員（産後ドウラ）の育成について、家事支援員等の資格を取るための支援制度などが必要と考えるが。

健康福祉課長

個人事業主として家事支援を行う方の資格取得を支援する予定は、現時点では考えていない。

現在の妊産婦さんが子育て支援に何を必要としているのかを把握し、必要な改善に適切に取り組んでいく。

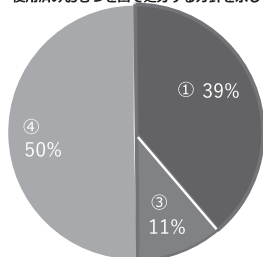
▽質問

町内の保育園では、使用済みおむつは、保護者

5割の自治体で使用済みおむつを園で処分する方針提示

使用済みおむつを園で処分する方針を示しているか。

N=369



- ① 公立の保育所に示している。
- ③ 公立・私立の保育所両方に示している。
- ④ 一切示していない。

※「② 私立の保育所に示している」の回答は0%。

保育園で処分することとした理由は保護者の負担軽減等が最多

保育園で処分することとした理由（自由回答の記載より算出／重複記載あり）

N=182

理由	回答自治体
保護者の負担軽減等	118自治体
衛生面への配慮	41自治体
感染症等への配慮	31自治体
保育士の負担軽減等	30自治体

厚生労働省による調査結果

学生支援機構の資料では、全国で146社がこの制度を活用しており、製造業から鉄鋼業とさまざまな業種に広がっている。現状では企業に対し、行政が支援をすることは考えていないが、有用な人材の確保に向けた支援になると考える。奨学金の代理返還制度について、商工会を通じて情報提供を考えていく。

が持ち帰っている。処分費用の課題はあるが、便の状態や回数等を保護者へ伝える等、子どもの健康状態を把握した上で、保育園でのおむつの処分に取り組んではどうか。

教育委員会事務局長

当町としても、保護者の皆さんや保育士からの意見を聞き、持ち帰りについての研究を今後進めていきたい。

▽質問

奨学金の代理返還制度を導入する企業に対し、行政からの支援制度を創設することで、学生と企業と地域社会の活性化を図ることができると考えるが。

産業課長

商工会を通じて情報提供を考える

産業課長

これまで、企業が従業員・社員に補助金として福利厚生の一環で、その相当額を支給する制度がある。これが直接それぞれの奨学金の貸与元へ支払いができる制度と理解している。

奨学金の代理返還への支援

区の役員・議員の なり手不足が問題

議会運営委員会

令和5年2月1日区長会と意見交換会を行いました。主なご意見は

▼大きな地区では誰かがやるだろうという考えがあり決まらない。

▼役員は、区が地区に割振りを行い地区長に任せている。アパートや未加入世帯へもイベントなどの案内通知を出すなど、つながる活動をしていく必要がある。

▼全員で役を回している状態であり、新しい地域づくりをしていかないとけない。

など役員や議員のなり手不足が問題として提起されました。対策として小さな区では順番に役を回している。若い人たちとも情報交換が必要とのご意見が出されました。△写真左 (副委員長 小川 記)



議会のページ

1月19日、要望書を携え町長・担当課職員・議員10名と共に国会を訪問し「天竜川かわまちづくり計画」都市公園計画について要望活動を行いました。

No.154に寄せられた モニターさんの 声・声・声

▼表紙

表紙のタイトルには、写真とリンクする情報を入れるべき。せっかく良い写真を使っているのに、見てみようという誘導につながっていないと思う。

▼一般質問

何故その一般質問をするのか、最初に議員さんの考えが書かれているのは、理解の上でとてもいい。

▼議会から町へ提言

もっと住民の立場で声を届けて欲しい。

▼裏表紙

みんなの声・高校生等、若者の声を聴けると良いと思う。

▼議会のつごき

QRコードを導入したことにより、情報に広がりが出てとてもいい。議会独自の視点もひるげていて欲しい。

各委員会の報告やモニターさんのご意見は、町ホームページに掲載しています。

議員自主研修事業 研修報告

ケアラーの支援が必要である

木下 啓 爾

第四講座

「ひきこもり本人や家族が必要とする支援」

講師 池上正樹氏

昨年度に引き続き本年度も「議員自主研修事業」を活用して、1月23日・24日の両日、大津市の全国市町村国際文化研修所に行ってきました。

今回の町村議会議員特別セミナーのテーマは「福祉関係」です。参加

の目的を「各分野で活躍されている専門家の講演を聞き、高森町の福祉の現状を見直し今後の議員活動の一助とする。」としました。

①ケアラーとは、介護・看病・療育・世話など

ケアに必要な家族や近

親者・友人・知人など

に対して、「無償」で

ケアする人。

②ヤングケアラーは大人

が担うようなケアを

行っている18歳未満の

子どもであり、大人に

なってもケアを続け、

若者ケアラー（18〜30

歳）となることも多い。

③ケアの種類は、家事、

身体的介助、医療的ケ

ア、金銭支援など多岐

にわたり、「見えにく

い」が存在する。

④ケアの必要な人の高齢化や要介護認定率の上昇、障がい者の増加などのため、ケアラーは増加している。

⑤ヤングケアラーの存在率は6%程度であるが「自分がやりたいことを我慢している」「相談をする場所や相手がない」などの問題もある。ケアラーが求めているのは、「ケアの役割を変わってくれる人」である。

⑥ケアが必要な人の支援に関わる法律だけでなく、ケアラー支援の法律が必要である。

以上、要点のみを報告しましたが、今後「高森町の現状」や「ケアラー支援」などについての議員活動を進めてまいります。

第三講座

「ヤングケアラー支援の課題と支援のあり方」

講師 堀越栄子氏

講師 加藤忠相氏

第一講座

「ベーシックサービス」

講師 井手 英策氏

第二講座

「個性を尊重する介護」

講師 加藤忠相氏



子どもの育ちを見守り 支える高森町に くらさわ ちほこ 下市田 倉沢千穂子さん

令和5年度公開査定を見させて頂きました。中でも「かわまちづくり」事業と「自分らしい学び」応援事業に関して町の動きに注目していきたいと思います。特に数年前から課題となりつつも具体的な対策が見えてこなかった不登校問題に教育委員会より提言と予算要求が示されたことは、時期遅しの感があります。緊急事態宣言と休校から始まったコロナ禍で、苦しい3年間を送ってきた子どもたちの心

の内を思うに、パンデミックのなかで大人も抱えきれない不安を子どもたちに背負わせてしまった後悔が残ります。この3年間を教訓に子どもを守るネットワークと、確固たる支援体制へのダイナミックな町の取り組みを期待しています。同時に私たち大人は今までのしきたりや慣例の上にたった考えと認識を改め、自由な発想を自分の生き方に反映していく子どもたちを強く支える踏み台になりたいと願います。

みんなの声



高森町の宝物を 地域で守る きのした ひでゆき 出原 木下 英幸さん

不登校支援をしとるNPO法人はなぶさ学園の木下つちゅうもんだに。全国で不登校児童が24万人を超えて社会問題になってるんだに。知らんかったら？こんな話し聞いたら学校は何やとるんだ。今の親たちはしょうねえもんだなあとか思ったら？でもなあ当事者の苦しみを知らん人がそんなこと言っちゃあいかに。おめーさんたちの目を気にして家から出れんかったりするんだに。お母さんたち

が理不尽に責められたりな。おらあなあ、不登校の子は天才って思うんな。才能の塊なんだに。おらあたちが偏見で見るもんで開花されんのな。これからリニアが来たりグローバルな時代が来てなあもう井の中の蛙で生きてけれんのだに。子どもは血が繋がってなくてもおらあたちの大切な宝もんだなあ。高森一丸となって子供たちの未来を守っていきまえ。

議会ホット情報便 のお知らせ

放送日：毎月第3
月曜日～日曜日
7:00 9:00
13:00 17:00
19:00

5月以降の担当者は 次の議員です

5月 佐々木 昌
6月 三浦喜久夫
7月 木下 啓爾

表紙の写真

4月2日に任命式と春季訓練が行われ、新しく藤田団長のもと、高森町消防団が船出しました。

令和5年度から、消防団員の欠員を補完するために「機能別消防団員」が導入されました。住民の生命や財産を守り、町の安全と安心を維持するという重要な役割を担ってくれます。

有事の際の知識や技術を身につけるための訓練等は大変ですが、消防団活動を通じて多くの仲間や先輩に巡り合って、豊かな人生を肉付けしてくれることでしょう。団員の皆さんに感謝と激励のエールを贈ります。（北沢 記）



編集 後記



議会だよりを編集しながら町のありかたや時事・事業の内容を議論したりします。政治姿勢は違っても、町民生活がより良くなるための意見交換や議論をしながらの作業はとて有意義です。
3月定例会が開催され、議案は多岐にわたりますが掲載は抜粋とし、見出しにはインパクトをもたせることで見やすさを心掛けています。消防団の皆さんの表紙写真撮影では、勇ましい姿を収めました。
編集委員会は今後とも皆さんの声を聴きにお伺いします。（本島 記）

あなたも議会を 傍聴してみませんか？

次回の定例会は

6月です。

場所 役場3階議場
詳しくは議会事務局へ
☎35-9404